

専門高校の現場から

～進学指導と生徒の動向～

最終回

家庭科高校

今号は家庭科高校の進学指導状況をレポートする。生徒数は減少しているが、男子の割合は増加。検定受験を通じて忍耐力やチャレンジ精神も養っている。事例では、専門知識の修得と技術・技能の実践力向上に励み、自立した社会人の育成をめざす福岡市立福岡女子高校の取り組みを紹介する。

家庭科高校の概況

高校での学びを深めるために 関連の学部・学科に進学

文部科学省の学校基本調査によると、2013年12月公表の家庭系学科在籍高校生数は4万2777人。10年前の2003年と比べると75%（高校生数全体では87%）に減少している。家庭系の学科数も減少しており、単独で家庭科を持つ高校は全国で6校となった。この背景には高校再編による学科統合や、1994年に誕生した総合学科の存在が考えられる。総合学科内に「家庭・家政コース」として設置されるケースが増えたためだ。

以前は女子生徒が圧倒的多数だったが、近年は男子生徒の割合が上昇している。全国高等学校長協会家庭部会の田中賢二事務局長は「家庭科の男女共修が根付いたこともあり、家庭科分野が進路の選択肢として考えられるようになったのではないかと分析する。

家庭部会の調査によると、長年1桁台で推移していた4年制大学への進学率が2011年度に12.1%と2桁に上昇した。2012年度卒業者の進路は、4年制大学進学が10.7%、短大・高専進学が17.1%で、専門学校を含めると約60%の生徒が進学している。田中事務局長は、「よりレベルの高い学習環境で、専門分野の学びを深めたいと考える生徒が増

えている」と話す。

そのことは学部選択にも表れており、2012年度の大学・短大・高専進学者のうち70～80%が、高校時代の学科と関連した学部・学科に進学している。

確かな技術力を育てる 家庭科技術検定

全国高等学校長協会家庭部会は、生徒の知識と技術の向上のために、被服製作技術検定、食物調理技術検定、保育技術検定の受験を勧めている。各検定とも1～4級の区分があり、さらに被服製作技術検定は「和服」「洋服」の2分野、保育技術検定は「音楽・リズム表現技術」「造形表現技術」「言語表現技術」「家庭看護技術」の4分野がある。上級資格の取得は非常に困難だが、2012年度は被服製作1級（和服）、被服製作1級（洋服）、食物調理1級の3種合格者（三冠王）が1086人あった。これに保育1級を合わせた4種合格者（四冠王）も100人いる。検定受験は、専門知識だけでなく技術力・実践力を身に付ける場であり、4級からスタートし飛び級受験を認めないため、忍耐力、チャレンジ力も培われる。

田中事務局長は、「専門学科の生徒は目的意識があり、高校の学習を通じて専門に対する興味・関心を深めている。大学・短大では技術力をさらに伸ばすカリキュラムを組んでいただきたい」と期待する。

事例

福岡市立 福岡女子高校

設立：1925年
区分：公立学校
生徒数：900人うち家庭系4学科456人（2013年5月現在）
設置学科：服飾デザイン科／食物調理科／保育福祉科／生活情報科／国際教養科／普通科
大学合格実績（家庭系4学科）：私立45人（2012年度現役合格者・短大含む）

家庭科教育の伝統校 各科の専任が専門教育

福岡市立福岡女子高校は「自立」「共生」「創造」を校訓とし、自己教育力を身に付けた自立した社会人の育成を掲げる伝統校である。服飾デザイン科、食物調理科、保育福祉科、生活情報科の4つの家庭系専門学科と、国際教養科、普通科がある。

ファッションに関する基礎的知識・技術を修得させる服飾デザイン科は、デザインを構成する感性と実践的能力を育成する。食物調理科は1961年に調理師養成施設として認可を受け、卒業と同時に国家資格である調理師免許が取得できる。保育福祉科は保育や介護の基礎的知識と技術を修得させ、少子高齢社会に対応できる人材を育成する。生活情報科は「情報」「マナー」「食生活」を学習の三本柱として、職業生活と家庭生活の両立に必要な知識、技術を修得させる。

他の専門高校同様、同校も実習授業

が多い。「学科専任の専門科目の教員を配置して、基礎力と応用力を確実に身に付けられる体制をとっている」と食物調理科の瀧田律子教諭は説明する。専門科目に実技指導を行う社会人講師を多く起用しているのも特徴だ。

卒業後の進路は大学・短大進学が3割、専門学校が4割、就職が2割。学科によって異なり、資格取得をめざす生徒が多い食物調理科や保育福祉科は、大学・短大志望者が多い。専門科目が3分の1強のカリキュラムのため、普通教科の学力への不安から、推薦・AO入試が中心となる。一般入試にもチャレンジさせたいが、不合格になったときに進路変更が難しく、現状では厳しいという。

こうした状況に鑑み、1年次から普通教科の補習を実施している。1年次は英語と国語、2・3年次は5教科を開講。希望制ながら、毎年20～30人が受講し、大学進学に向けた学習に励んでいる。

進路指導主事の中尾貴史教諭は「高校時代の学びの延長線上にある学部・学科に進学する生徒が多いので、大学でも向上心を持って学習に取り組めるよう指導している。学力だけでなく、資格や技能を生かした進学が叶うような入試のチャンスを増やしていただければ、家庭科で学ぶ生徒の進路選択の可能性がより広がる」と話している。

自身の学習意欲も高まる 公開講座での講師経験

同校では、地域との交流の場として、夏休みなどの長期休暇を利用した「ものづくり教室」を開催している。小学生と保護者を対象とする公開講座で、生徒が企画し、講師も務める取り組みだ。「ミシンや手芸を取り入れた子ども手づくり教室」（服飾デザイン科）、「子ども工作教室」（保育福祉科）、「ポストカードづくり教室」（生活情報科）といった、各学科の特性を

生かした講座で、福岡市の広報等を通じて告知し、参加者は毎回30～40人と盛況だ。「生徒にとっても日頃の学習成果を確認し、学びへの理解を深める機会になっている。子どもに教えるという経験は、学習意欲の向上にもつながる」と瀧田教諭は言う。

専門知識を高め、問題解決能力や創造力を育てる科目として、3年次に行う「課題研究」がある。自ら設定した課題に個人またはグループで取り組むもので、テーマ研究だけではなく実習も行う。服飾デザイン科は、各自の研究テーマをもとに製作した作品を、ファッションショーの中でも発表している。保育福祉科は保育園や幼稚園、高齢者施設などで年5回の実習、生活情報科は福岡市西区役所で年19回のインターンシップに参加している。

研究成果は高校3年間の学びの集大成として、レポートにまとめたうえで、学科ごとの発表会でプレゼンテーションされる。発表会には生徒や教員のほか、受け入れ機関の関係者や近隣中学校の教員などが出席する。学科の代表に選ばれた生徒・グループは、全校集会で発表を行い、普通科や国際教養科の生徒にも学習成果を報告する。

「プログレスノート」で 3年間の成長を履歴化

キャリア教育の一環として、「なりたい自分」を思い描き、それに近づくための日常の行動を記録する「プログ

「課題研究」のテーマ例（抜粋）	
学科	テーマ例
服飾デザイン科	・ヴェネチアのカーニバルの衣装について ・LEDとファッションの融合 ～LEDを効果的に取り入れたファッションショー衣装の製作～ ・和服の模様 和柄について ～模様を意識した製作と着こなしによる江戸ファッションの表現～ ・プリンセスラインのウェディングドレスの製作 ～生地のみ組み合わせと装飾の工夫～
食物調理科	・洋菓子：スポンジケーキ、パイ、シュー、タルト、ムース、パンなど、専門的な菓子作りのための研究、実習 ・手打ち麺：うどん、そば、ラーメン、担担麺、ラザーニャ、フィットチーネなど、専門的な麺作りのための研究、実習 ・中国料理：北方系、西方系、東方系、南方系各地方の代表料理の研究、実習 ・栄養：免疫力を高める生活や食事についての研究、実習
保育福祉科	・幼稚園・保育園：生活習慣、遊び、音楽活動、造形活動、園行事 ・障がい児施設：障がい児との関わり方 ・障がい者施設：コミュニケーション ・高齢者施設：生活介護
生活情報科	・福岡市西区役所でインターンシップ ・プロモーションビデオを制作する ・野菜嫌いな人でも食べられる野菜パンを作ろう ・おからで健康的にダイエット

レスノート」を2009年に導入した。

同校では経済産業省の「社会人基礎力」を、高校生活を通じて磨きたい力に位置付けている。プログレスノートにも「社会人基礎力に関する気づきと成長記録」と題したページを設け、12の力別に、どんな行動によって伸ばす努力をしたか、その結果、社会人基礎力がどれくらいアップしたかを、学期末、学年末に自己評価する。そのほかにも進路カルテ、進路学習の記録、成績についての振り返りシート、検定結果などが1冊に収められ、3年間の成長の履歴を残す。

記入内容は担任がチェックし、生徒の状況に合わせた指導をしている。このシステムの導入によって、進路の迷いや成績の停滞に対する早期対応が可能になったという。

また、1年次の必修専門科目「生活産業基礎」の時間を活用し、多方面から卒業生を学校に招いて、進学先、就職先での近況を話してもらう。身近な先輩がいきいきと活動する様子は、生徒の進路意識の醸成を育む生きた教材となっている。

こうした取り組みが評価され、同校は2010年度に文部科学省キャリア教育優良校に選定された。